

'64  
5/10

全日本  
カッター  
レース

8

## 第八回全日本カッター競技大会

- 主 催 全日本カッター連盟
- 主 管 東京商船大学
- 後 援 館 山 市  
館山市教育委員会  
館山市体育協会  
スポーツニッポン新聞社
- 協 賛 毎 日 新 聞 社
- 日 時 昭和39年5月10日（日曜日）  
午前9時から午後4時まで
- 会 場 館山市東京水産大学実習場沖

## 第八回全日本カッター競技大会を迎えて

東京商船大学長 浅井 栄 資

風薫る五月、全国の海事に関連する各大学学生の中から、選りすぐった 200 名の精鋭が東京湾口の館山に相集い、ここに平素練磨の技を競い合う才八回「全日本カッター競技大会」を迎えましたことは、私共の大きな喜びであり感激であります。

年に一度のこのカッター競技大会も、年を重ねるに従つて、各クルーの心・技・体一味の向上と進歩は、まことに目覚ましいものがあります。それは平素からの諸兄の精進と努力がこの一日に結集され、お互いに各大学の漕法や気力や体力に学ぶところが多く、それを反省の資料として、次の一年の精進が続けられてきたからであります。

私は自分の長い海上生活の経験に照らして、カッターの漕法はすべてのシーマンシップの基本であると固く信じております。それはカッターの漕法に習熟したものは必ず船舶の操法もうまく、海上のあらゆる困苦に打ち勝つ不屈の気力と体力をこれによつて培い、そしていつの間にか、物腰や態度にも海の男としての逞しさが自ら備わつてくることを、長年この目で見てきたからであります。

‘知性と逞しさ’ これこそ海に関連する大学生の必須の要件ではないでしょうか。どうか全国の各大学から参集された選手諸兄、終始フェアプレイの精神をもつて、平素の鍛練を充分に発揮せられ、勝つも負けるも悔いのない熱戦を、今日この日に展開せられんことを望みます。

今年わが大学が当番校として設営その他の準備に当りましたが、本学所在地の環境その他のやむを得ない事情によつて、大変不便なところでこの大会を開かないを得なかつたために、各大学の役員、選手諸氏にご不自由とご迷惑をかける結果となつたことを、まことに申訳なく存じます。

しかし、そのようなことにも挫けず諸兄の熱と力によつて、この大会が有終の美をもつて終わりますように、全幅のご協力あらんことを切にお願いして、ご挨拶の言葉といたします。

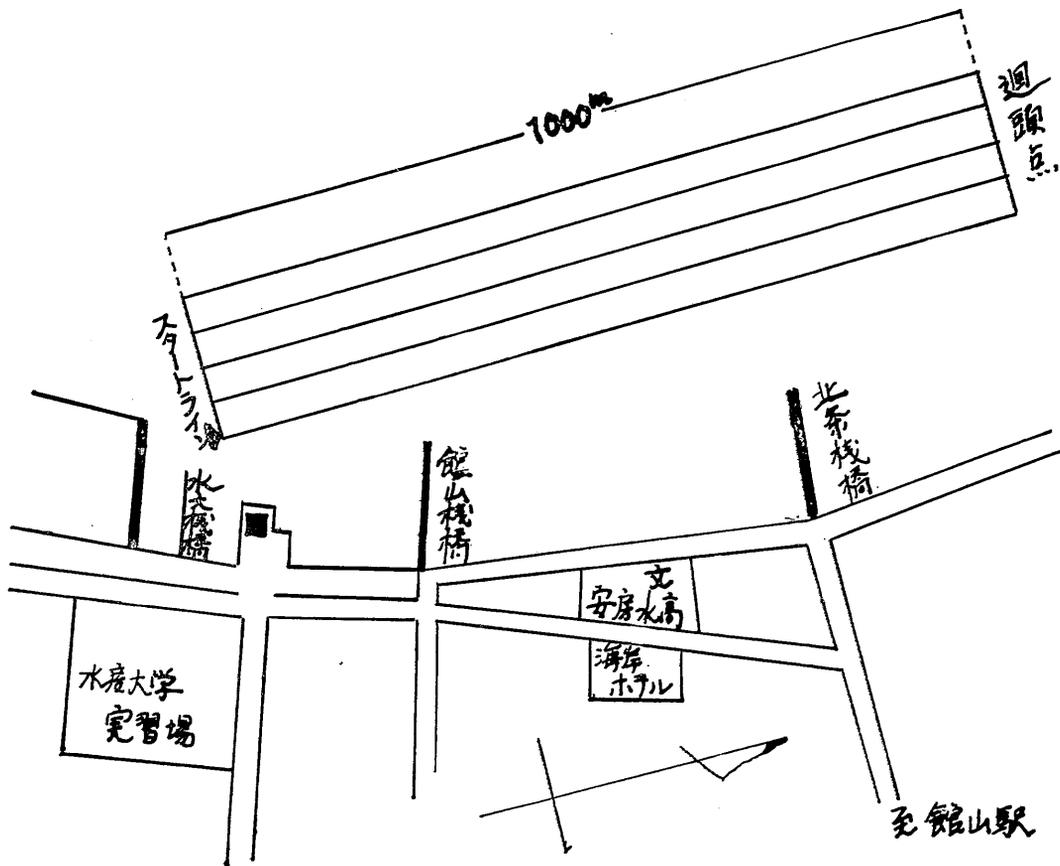
# 大 会 役 員

会 長	東京商船大学 学 長	浅 井	栄 資
副 会 長	東京商船大学 学生部長	真 壁	忠 吉
審 判 長	東京商船大学 教 授	岡 田	正 明
役 員	海 技 大 学 校	片 上	主 四 郎
	海上保安大学校	八 重 樫	勉 国
	鹿 児 島 大 学	皆 元	久 雄
	神 戸 商 船 大 学	西 原	義 市
	水 産 大 学 校	橋 本	幸 康
	東京水産大学	佐 々 木	幸 則
	長 崎 大 学	麻 生	秀 男
	日 本 大 学	添 田	梯 次
	防 衛 大 学 校	八 卷	鉄 雄
	三 重 県 立 大 学	細 川	保 司
	東京商船大学	中 島	讓 平
顧 問	館 山 市 長	本 間	和 祐
	館 山 市 教 育 長	工 藤	高 橋
	館 山 市 体 育 協 会 長	高 橋	祐 二

# 大 会 委 員

委 員 長	渡 辺 陽 一 郎	進 行 井 上	武 正 正
總 務 会 計	佐 藤 勝 二 郎	警 戒 保 安 杉 山	憲 正 郎
涉 外 広 報	宮 崎 野 賢 輔	宿 泊 鈴 木	勝 二 郎
会 場	飯 野 賢 輔	給 食 佐 藤	茂 生 裕
接 待	浅 沼 誠 一 郎	医 務 衛 生 山 田	峯 雄
配 船	神 谷 永 田	出 発 決 勝 加 藤	
競 技 場	福 植 金 峯	記 録 金	

# コース略図



## 成績一覽

- |             |           |               |
|-------------|-----------|---------------|
| 1. ① 東京水産大学 | ② 東京商船大学  | ③ 神戸商船大学(東京)  |
| 2. ① 東京水産大学 | ② 水産大学校   | ③ 東京商船大学(神戸)  |
| 3. ① 水産大学校  | ② 海上保安大学校 | ③ 東京水産大学(呉)   |
| 4. ① 神戸商船大学 | ② 海上保安大学校 | ③ 水産大学校(横須賀)  |
| 5. ① 東京水産大学 | ② 水産大学校   | ③ 海上保安大学校(神戸) |
| 6. ① 東京商船大学 | ② 防衛大学校   | ③ 水産大学校(館山)   |
| 7. ① 東京水産大学 | ② 海上保安大学校 | ③ 神戸商船大学(呉)   |

出 漕 ク ル 一

海 技 大 学 校

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	( 県 )
顧問	片上圭四郎					
艇指揮	西村武夫	E・2	175	63	鳥羽商船	(三重)
艇長	◎ 中の尾益三	E・2	165	63	鳥羽商船	(三重)
1	的場章悟	N・2	165	65	富山商船	(富山)
2	藤田哲三	E・2	172	65	大島商船	(山口)
3	坂本泰敏	E・2	166	61	大島商船	(広島)
4	○ 藤原隆征	E・2	165	65	弓削商船	(愛媛)
5	牟田文彦	E・2	170	60	鳥羽商船	(三重)
6	村谷昌宜	E・2	168	60	大島商船	(山口)
7	杉山金吾	E・2	164	65	鳥羽商船	(三重)
8	金沢伯聖	N・1	174	63	鳥羽商船	(三重)
9	峰松太郎	E・1	168	63	弓削商船	(愛媛)
10	島田秋久	E・1	175	65	大島商船	(山口)
11	魚井昭夫	E・2	163	61	大明石商	(兵庫)
12	補 矢地 晃	N・2	160	60	海技学院	(兵庫)
〃	森 勇 作	N・2	171	62	海技学院	(兵庫)
〃	扇 谷 明 光	E・2	160	63	海技学院	(兵庫)
〃	西 田 六 助	E・2	167	64	海 技 学 院	(兵庫)

(註) ◎印は主将 ○印はマネージャー 以下全

海 上 保 安 大 学 校

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	( 県 )
顧問	八重樫 勉					
艇指揮	伊藤晋	E・3	172	64	海城高	(東京)
艇長	熊谷幸男	E・3	166	58	徳山高	(山口)
1	森 征四郎	N・3	167	65	紫野高	(京都)
2	村上克久	2	165	61	山口高	(山口)
3	金田 徹	2	172	63	尾道北	(広島)
4	土屋輝義	2	165	60	誠之館	(広島)
5	松永敬典	2	176	66	出雲水	(鹿児島)
6	小林建夫	N・3	172	64	墨田川	(東京)
7	小毛利俊輔	N・4	167	68	藤島高	(福井)
8	岡島宣昭	2	175	70	日吉ヶ丘	(京都)
9	藤原英昭	E・3	168	64	北見柏陽	(北海道)
10	菅野建夫	E・3	165	66	東北学院	(宮城)
11	金山義信	E・3	167	66	高岡高	(富山)
12	池田利武	2	171	63	隠岐高	(島根)
補	川原忠彦	2	167	63	出水高	(鹿児島)
〃	江籠英昭	2	168	60	甲南高	(鹿児島)
〃	笠嶋晃	2	164	57	鯖江高	(福井)
マネージャー	斎藤弘 昭	W・3	166	59	札幌東	(北海道)

出 漕 ク ル

鹿 児 島 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	皆元 国					
艇指揮長	松永 周二	製・3	160	58	筑紫 丘 高	(福岡)
艇長	益満 侃	漁・3	159	48	甲南 高	(鹿児島)
1	下小川 仁郎	漁・3	164	53	鹿児 島 高	(鹿児島)
2	泉賢 三	漁・2	163	55	天草 高	(熊本)
3	武田 輝	漁・3	163	53	京 都 高	(福岡)
4	下麦 覚	製・3	167	61	甲南 高	(鹿児島)
5	渡辺 知彦	漁・3	172	64	大牟 田 北 高	(福岡)
6	高浜 一宇	漁・2	165	62	熊 本 高	(熊本)
7	池田 一行	製・3	170	60	小野 田 高	(山口)
8	松田 蔚	製・3	178	70	加治 木 高	(鹿児島)
9	田卷 正男	漁・3	165	55	墨田 川 高	(東京)
10	田坂 二司	漁・2	173	65	杵 築 高	(大分)
11	岡本 剛	漁・3	164	58	田 川 高	(福岡)
12	山本 剛	製・3	171	58	下 関 西 高	(山口)
補	◎ 徳重 晴彦	漁・3	175	61	水 産 高	(山口)
〃	〇 宮田 淳二	増・3	169	65	門 司 東 高	(福岡)
〃	芥川 裕	漁・2	165	56	宇 土 高	(熊本)
〃	小倉 征雄	漁・2	168	63	日 立 氷 一 高	(茨城)

神 戸 商 船 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	西原 義久					
艇指揮長	◎ 佐藤 勳	E・4	158	60	富田 林 高	(大阪)
艇長	鈴木 三郎	N・4	164	65	天王 寺 高	(〃)
1	堀田 彦一	N・4	170	68	天 港 高	(〃)
2	寺田 栄一	E・2	171	67	岸 和 田 高	(〃)
3	加藤 計太郎	N・3	175	65	寝 屋 川 高	(〃)
4	西 逸弘	N・2	177	68	旭 高	(〃)
5	中津 安正	N・4	172	70	豊 中 高	(〃)
6	永戸 圭介	N・3	174	67	桃 山 高	(京都)
7	渋谷 勉	E・4	171	66	星 陵 高	(兵庫)
8	斎藤 興紀	E・3	183	75	仙 台 二 高	(宮城)
9	矢部 尚三	E・2	179	74	神 戸 高	(兵庫)
10	樋口 弘	N・3	173	65	保 原 高	(福島)
11	飯田 恒雄	N・4	170	66	豊 中 高	(大阪)
12	大崎 修司	E・4	170	65	半 田 高	(愛知)
補	〇 高杉 喜雄	E・3	162	62	朝 日 高	(岡山)

# 出 漕 ク ル 一

## 水 産 大 学 校

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	橋本雄					
艇指揮	真鍋武彦	製・3	169	53	西条高	(愛媛)
長	福師田得志	製・3	160	50	大西高	(宮崎)
1	朝日向豊邦	漁・3	163	63	田川高	(福岡)
2	景山光昭	製・3	170	57	戸畑中	(福岡)
3	米谷晃	機・3	167	70	安房中	(千葉)
4	小久保英夫	機・2	176	68	川西宮	(兵庫)
5	亀代嘉彦	漁・3	174	72	川越高	(埼玉)
6	田中勝昭	漁・2	170	70	城南高	(徳島)
7	平井靖明	製・2	180	70	佐賀高	(佐賀)
8	水橋慶	漁・3	170	70	光園高	(岡山)
9	小船津良	機・3	173	70	金斐高	(岐阜)
10	清岡浦昭	漁・3	173	68	小長岡	(新潟)
11	森三関	製・3	170	67	中国倉	(福岡)
補	関健	機・3	171	63	中国学	(高知)
〃	石沢	漁・2	163	60	学院	(東京)
〃		漁・2	171	63	葦高	(兵庫)
〃		漁・4			合高	(香川)
〃		機・3			瀨星高	(京都)

## 東 京 水 産 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	佐々木幸					
艇指揮	◎ 松田昌一	漁・4	170	68	文京高	(東京)
長	藤田繁	漁・4	168	64	八尾高	(大阪)
1	成野義成	増・3	174	68	文京高	(東京)
2	水野義成	製・3	164	57	太田高	(群馬)
3	八木橋正親	製・3	170	60	沼津北	(静岡)
4	大久保克樹	漁・3	175	68	名訓高	(新潟)
5	大矢雅道	漁・3	168	68	成東高	(千葉)
6	◎ 岩崎孝治	漁・4	181	72	川崎高	(神奈川)
7	今井直	漁・3	172	73	富岡高	(群馬)
8	石部勝	漁・3	173	70	国高	(広島)
9	田中勝	漁・2	178	70	太田寺	(高島)
10	菅原勝	増・2	168	69	桐葉高	(東京)
11	石井丸	漁・4	169	68	千葉一	(宮城)
12	柴田洋	増・4	168	64	千倉高	(千葉)
補	荻原紘	漁・3	168	61	野沢北	(福岡)
〃	佐藤勤	漁・3	172	64	野尾高	(長野)
〃	加藤光	漁・2	167	67	広尾習	(東京)
〃	山崎裕	漁・2	166	58	野藏高	(福岡)
〃	三田村	漁・2	173	62	野千高	(東京)
〃		漁・4	172	67	膳所高	(滋賀)

出 漕 ク ル 一

防 衛 大 学 校

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校 (県)
顧問	八 卷 梯 次	航・4	171	62	石 神 井 高 (東 京)
艇指揮長	◎ 宮 木 曠 道 二 昌	航・3	166	61	奈 良 高 (奈 良)
艇長	山 崎 綱 三	応・3	162	60	觀 音 高 (広 島)
1	岩 里 隆 剛	電・3	157	56	丸 龜 高 (香 川)
2	井 村 進 一	土・2	173	63	(神奈川)
3	中 坂 正 俊	電・3	169	64	西 彼 杵 高 (長 崎)
4	長 朝 倉 田 時	機・4	165	60	土 浦 一 高 (茨 城)
5	朝 倉 田 時	航・4	164	63	仙 台 二 高 (宮 城)
6	吉 田 長 谷 川	応・4	170	65	島 原 高 (長 崎)
7	上 羽 晃 樹	電・3	166	68	藤 島 高 (福 井)
8	小 林 秀 朝	電・3	165	63	東 舞 鶴 高 (京 都)
9	大 場 朝 人	電・3	170	63	倉 敷 西 陵 (岡 山)
10	香 川 田 武 道	電・3	167	62	熊 本 高 (熊 本)
11	山 田 哲 之	応・4	165	64	丸 龜 高 (香 川)
12	山 北 弘 之 稔	応・2	169	57	松 山 南 高 (愛 媛)
補	古 沢 英 弘 示	機・2	168	61	兵 庫 高 (兵 庫)
〃	長 浜 村	機・2	169	64	横 須 賀 学 院 (神奈川)
〃		機・2	168	64	仙 台 二 高 (宮 城)
〃		機・2	170	64	長 崎 東 高 (長 崎)
〃		機・2	165	65	修 猷 館 (福 岡)

三 重 県 立 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校 (県)
顧問	細 川 鉄 雄				
艇指揮長	○ 瀧 沢 昌 二	2	166	56	遠 軽 高 (北 海 道)
艇長	吉 村 俊 一	漁・3	168	55	四 日 市 南 高 (三 重)
1	青 木 晴	漁・3	168	62	夕 陽 丘 高 (大 阪)
2	辻 下 修	漁・3	160	55	松 阪 高 (三 重)
3	久 岡 成 美	製・3	170	60	松 阪 高 (三 重)
4	高 瀬 英 臣	2	172	60	松 阪 高 (三 重)
5	五 十 嵐 孝 夫	2	162	55	白 子 高 (三 重)
6	浅 河 武	2	174	58	旭 高 (大 阪)
7	福 田 利 久 郎	2	170	70	佐 世 保 北 高 (長 崎)
8	西 村 健	2	172	65	須 知 高 (京 都)
9	田 中 祥 治	漁・3	174	68	津 高 (三 重)
10	赤 星 辺 夫	漁・3	170	70	松 阪 高 (三 重)
11	○ 渡 庄 山 川	製・3	165	60	新 津 高 (愛 知)
12	◎ 石 柴 原 敬 宏	増・3	165	56	新 津 高 (三 重)
補		2	167	60	四 日 市 高 (三 重)
〃		2	154	60	伊 勢 高 (三 重)
〃		2	169	55	上 野 高 (三 重)

# 出 漕 ク ル 一

## 日 本 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校 (県)
顧問	田 秀 男	製・4	167	59	厚 岸 水 高 (北海道)
艇指揮長	◎ 添 藤 孝 之	製・4	176	70	二 松 学 舍 (東京)
艇長	○ 上 田 泰 昭	製・2	167	64	日 大 大 山 (東京)
1	儘 田 義 明	漁・3	165	62	馬 込 東 高 (東京)
2	長 峰 俊 治	製・2	171	66	日 大 大 高 (東京)
3	光 田 三 男	製・2	170	65	水 海 道 高 (茨城)
4	中 島 禎 夫	製・3	172	60	日 野 大 一 高 (東京)
5	吉 水 田 彦	製・3	162	58	野 田 高 (千葉)
6	西 尾 有 史	漁・3	173	70	日 大 一 高 (東京)
7	中 村 篤 松	漁・3	163	62	厚 岸 水 高 (北海道)
8	佐 々 木 正 雄	増・2	163	70	城 北 高 校 (東京)
9	兼 子 昭 夫	増・2	163	70	江 戸 川 高 (東京)
10	岸 田 多 雅	製・4	165	60	世 田 谷 高 (東京)
11	安 齋 朝 英	漁・3	163	57	東 京 農 大 一 高 (神奈川)
12	補 丸 赤 坂 正 勝	製・3	160	50	城 常 西 高 校 (埼玉)
〃	〃 井 上 侑 彦	製・2	160	50	京 大 一 高 校 (東京)
〃	〃 長 崎 侑 節	製・3	172	67	日 大 一 高 校 (東京)
〃	〃 若 田 男 徹	漁・3	163	57	冲 大 島 高 校 (沖繩)
〃	〃 坂 井	漁・3	172	60	帝 大 櫻 ヶ 丘 (東京)
〃	〃	漁・3	175	70	帝 大 京 高 (東京)

## 東 京 商 船 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校 (県)
顧問	中 島 保 司	E・4	171	66	九 段 高 (東京)
艇指揮長	◎ 大 坪 広 幸	E・4	158	63	豊 多 摩 高 (東京)
艇長	○ 島 田 忠 雄	N・4	158	63	豊 多 摩 高 (東京)
1	橋 本 春 彦	E・2	171	64	千 歳 高 (福岡)
2	原 深 二 郎	N・4	168	69	小 倉 高 (福岡)
3	岡 忠 一	E・3	164	65	海 城 高 (東京)
4	城 石 裕	E・2	173	65	福 岡 高 (福岡)
5	石 井 攻	E・2	170	68	福 向 丘 高 (東京)
6	河 原 健	N・3	177	70	小 田 原 高 (神奈川)
7	福 留 德 昭	E・3	175	75	安 芸 高 (高知)
8	斎 田 文 雄	N・3	167	67	広 尾 高 (東京)
9	奥 田 忠 道	N・2	167	71	洛 陽 高 (京都)
10	齋 藤 徹 郎	N・3	169	66	千 歳 高 (東京)
11	飯 塚 堯 久	N・4	172	64	廣 尾 高 (東京)
12	橋 研 太郎	N・4	170	64	吳 三 津 田 高 (広島)
補	柳 本 生 武 志	E・2	165	59	一 宮 高 校 (愛知)
〃	〃 中 川 正 三	N・2	163	59	浜 田 高 校 (島根)
〃	〃 竹 村 大 和	E・2	165	65	希 望 ヶ 丘 高 校 (神奈川)
〃	〃 小 林 彰	N・2	174	68	北 園 高 校 (東京)

# 出漕クルー

## 長崎大学

	氏名	科・学年	身長	体重	出身高校	(県)
顧問	麻生幸則					
艇指揮	大原光喬	漁・3	160	55	松山	高(愛媛)
艇長	松本光泰	漁・3	168	55	田川	高(福岡)
1	寺元省伍	漁・2	165	70	津山	高(岡山)
2	富成征二	製・2	163	60	上野	丘(大分)
3	○山口英夫	漁・3	170	67	西京	高(京都)
4	坂梨英昭	漁・2	166	64	伝習	館(福岡)
5	赤井護	漁・2	172	80	操山	高(岡山)
6	笹尾昭信	漁・3	174	66	小野	田高(山口)
7	押方翼	漁・2	177	68	鶴見	丘(大分)
8	李英夫	漁・3	179	75	若松	高(福岡)
9	◎米倉照光	漁・3	170	67	明善	高(福岡)
10	林幹郎	漁・3	167	60	枕崎	高(鹿児島)
11	山本健二	漁・3	172	60	長崎	東(長崎)
12	大渡義男	漁・3	167	60	武雄	高(佐賀)
補	寺浦寛治	漁・2	170	62	那賀	高(和歌山)
〃	梅崎泰也	漁・2	166	57	西南	学院(福岡)
〃	渡辺誠一郎	漁・3	165	50	伊丹	高(兵庫)
〃	池永勝彦	漁・2	165	58	尼崎	高(兵庫)
〃	植木俊勝	漁・2	160	55	長崎	西(長崎)
〃	西山精治	漁・2	164	52	大村	高(長崎)

## レースの手引

本大会に使用される艇は長さ9米12人漕のカッターである。救命艇として使用されるものであるが一般のそれは艀艇同型であるのに対し、艇を切落して外観は普通の舟艇と変わらない。外板鍍張の木製でオール12本(各々長さ約4米40握りの直径8.2釐重さ10乃至15斤である)マスト、セール等の艀装品を備え帆走も可能である。漕手はクルーと呼ばれ艇尾より船首に向つて艀右側の者が1番、同じく左側の者が2番、以下交互に3 4~11 12番と続き、1、2番をBowmen 11、12番をStrokemen(整調)と称して橈漕のピッチを加減する任務を持つ、艇尾で舵を握るのが艇長で、指揮号令を行つているのが艇指揮である。艇指揮は艇の全ての指揮を行い船長に相当する。

レース距離は折返し2000米の直線コースで行う。各艇の艇首が一直線に並んだ時、号砲の信号を以つてスタートしスタートラインより1000米の所に設置された各コース毎の回頭旗を、艇をこれに接触させずに左回り(反時計回り)に回頭して帰ってくる。即ちスタートラインがそのままゴールラインで、ゴールは艇首がゴールラインに達した時とする。予選は各グループ4チームづつで分けて行う。各グループの優勝チーム及び2位となつたチームが敗者復活戦を行つて1位となつた計4チームによつて最後に優勝戦が行われるのである。レースはいずれも時間的ずれによる海況の変化の影響等のために、タイムレースでなく着順位である。ピッチ(1分間に漕ぐ回数)は大体30前後であるが各チームとも漕法の研究を重ねているで必ずしも一定ではなく、それぞれ特色のある漕法によるピッチを持つている。レース所要時間は10分余である。しかし、救命艇という性質上、いかなる荒海でもレースは行われ、その様な場合には30分にも及ぶ。カッターレースは10分余の間一腕といえども息を抜くことを許されず、しかもクルー全員の呼吸が完全に一致しなければならない。レースの見所は、ピッチをいくりに定めるか、スタートダツシュ、回頭ラストスタートの巧拙、風浪、海潮流の対策、利用の巧拙等、たゆまぬ練習、シーマンシップを完全に身につけた者が初めて克服できる実技を兼ねた、最も豪快な海のスポーツである。

## 審 判 規 則

1. 使用艇, オール及びコースはレースの都度抽選により決定する。
2. スタート
  1. 各艇は指定の時刻コース順に従いスタートラインに整列する。
  2. 5分前をマイクにより通達, スタートブイにつく, ブイに着き用意が完了したら艇長は陸上の審判員に手を挙げて合図する。
  3. スタート用意: 号笛短声連続, 手旗2原画, 号笛長一声手旗頭上より一回転する。
  4. スタート: 頭上の手旗を垂直に振下すと同時に号砲を打つ。
3. 審判長, 審判員がスタートを不完全と認めた時は直ちにレースを中止せしめ, スタートラインに呼び返す。  
諸信号, 審判艇コース横断
4. スタートに於ける号令前の飛出し, 及び艇の事故によるスタートの遅速等は2回で失格である。
5. 回頭は左回頭(反時計回り)とする。回頭は指定の回頭旗を回頭するものとし, 他の回頭旗を回頭した場合, 及び回頭旗に艇又はオールの一部でも接触した場合は失格である。
6. ゴール  
艇首が規定のゴールラインに入つた順序をもつて順位とし, 順序は審判員が判定する。
7. 同着の場合は追込艇の勝とする。
8. ゴールイン時のスタートブイタッチは失格としない。
9. 各艇は自己のコースを航行し, もしこれを誤つて他の艇に接触その他不正行為があつたと審判員の認めたときは失格とする。
10. レース中のコースに於ける障害, 自艇の故障等は他艇の不正な接触を除く他各艇自からこれを忍ぶべきものとする。しかし審判長の判断によりこの限りでない時もある。
11. レースに関する異議申立等はすみやかに艇指揮がこれを行い, 審判長が裁決する。
12. オールは予備2本を積み自由に使用してよい。
13. 補欠は2名以内自由に交替できる。
14. オールは流したままゴールインしても差支えない。

M E M O

天候

風向

風速

波浪

時刻	種目	コース	大	学	名	着順	タイム
0900	開 会 式						
1000	予選1レース						
1040	予選2レース						
1120	予選3レース						
1140~ 1300	昼 食 休 憩						
1330	敗者復活レース						
1410	順位決定レース						
1500	決勝レース						
1600	閉 会 式						